

▶ 庄内川水系堀川圏域

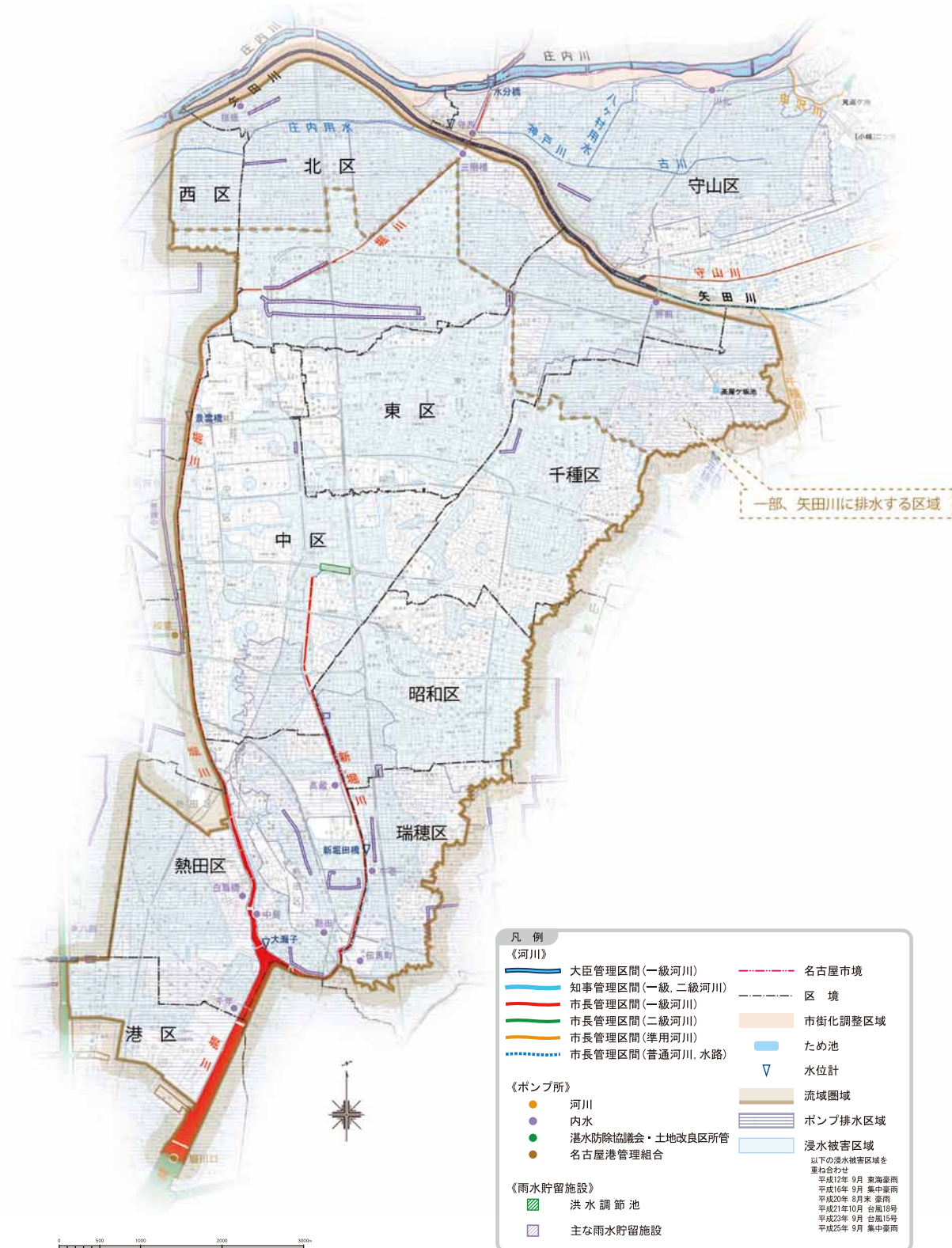
堀川は、庄内川の水分橋上流に位置する庄内用水頭首工より分派し、矢田川を地下で横断した後、本市の中心部を熱田台地の西に沿って北から南に流下し、途中で新堀川を合わせ名古屋港へ注ぐ一級河川で、河口部には高潮による被害を防ぐため、防潮水門と堀川口ポンプ所が設置されています。堀川の朝日橋下流及び新堀川全川は港湾区域に指定されており、防潮水門、堀川口ポンプ所及び港湾区域の水面を名古屋港管理組合が管理しています。

堀川及び新堀川の中上流域は自然排水ですが、下流域では雨水ポンプにより排水しています。堀川の上流域では、雨水ポンプにより一部の雨水を矢田川に排水しています。平成12年東海豪雨や平成20年8月末豪雨で著しい被害が集中した地域では、緊急雨水整備事業により貯留施設整備や管きよの増強などを実施しました。



【本市の対応】

優先整備河川：(一)堀川(護岸整備、河道掘削)、(一)新堀川(流域貯留施設整備)
 下水道等：下水管等、雨水ポンプ施設(能力増強)
 その他：100mm/h安心プランに基づき、河川・下水道等の整備を推進



▶天白川水系

天白川は、日進市を源流とし名古屋港に注ぐ、延長21.5km、流域面積118.8km²の二級河川です。本市では、天白川・繁盛川(以上、愛知県管理)、植田川・藤川・扇川・手越川・大高川・瀬木川(以上、名古屋市管理)が流れています。

平成12年東海豪雨では、天白川の堤防から越水するなど沿川で甚大な被害が発生しました。これらの被害を受けて、「河川激甚災害対策特別緊急事業」を平成12年度から平成16年度までの5年間で実施し、河口から8.5km付近までの河道掘削、築堤・堤防強化、橋梁の改築などを行いました。引き続き、平成12年東海豪雨と同規模の洪水が発生しても、破堤などによる甚大な被害を防止することを目標として、整備が進められています。

流域の大部分は丘陵地帯であり、自然排水をしています。天白川沿川などの河川より土地が低い地域では、雨水ポンプにより排水しています。平成12年東海豪雨では、内水氾濫による浸水被害も発生しており、著しい被害が集中した地域では、緊急雨水整備事業により雨水ポンプの増強や貯留施設整備、管きよの増強などを実施しました。



【本市の対応】

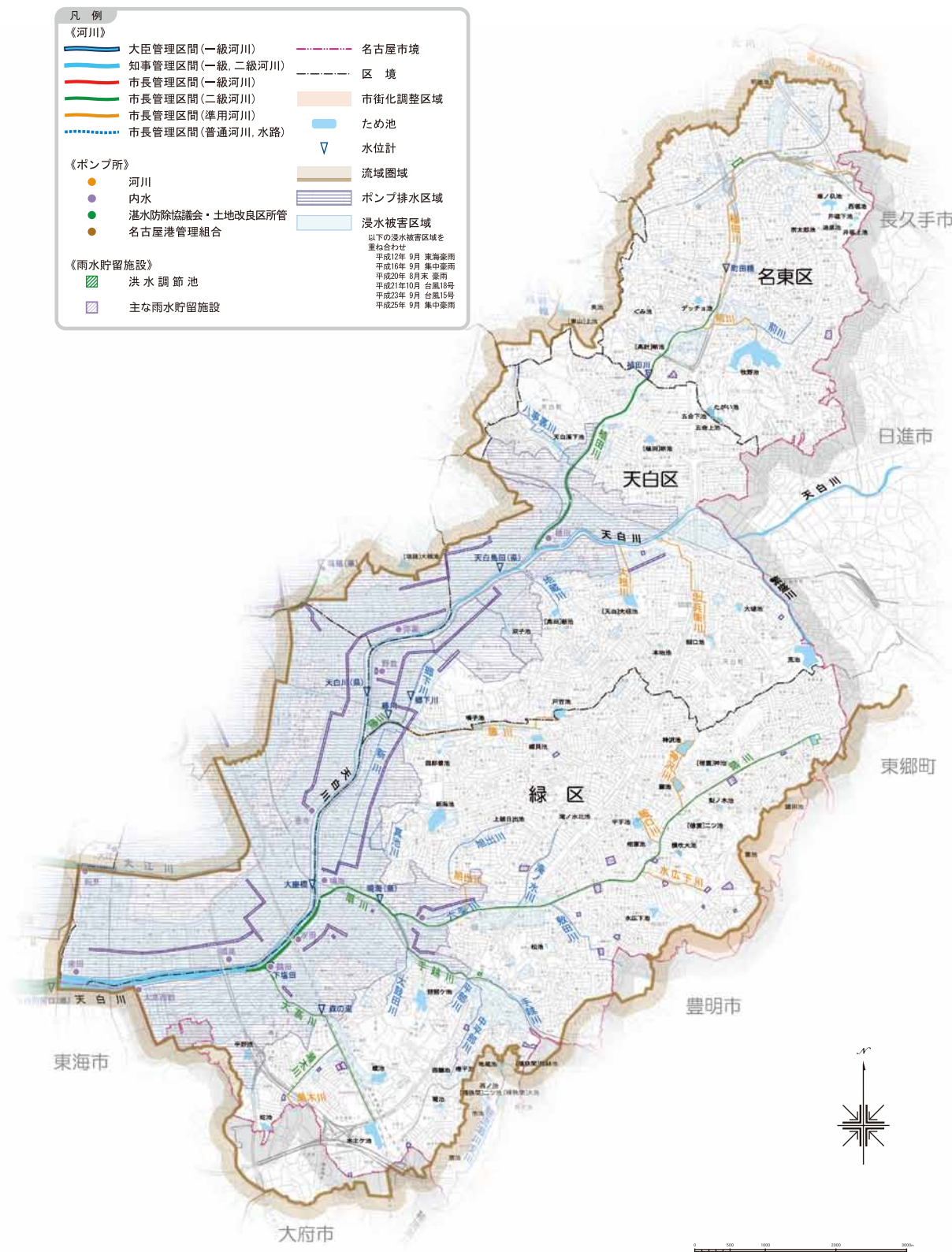
河川(愛知県管理): 県に対し、事業の着実な促進・推進を要望

優先整備河川: (一)扇川(橋梁嵩上げ)、(二)植田川(河道掘削)
(二)手越川(河道掘削)、(準)旭出川(河道整備)
(準)忠兵衛川(河道整備)、(準)前川(河道整備)

その他河川: (準)細口川、(準)水広下川、(準)瀬木川
(更新等に合わせて整備)

下水道等: 下水管等・雨水ポンプ施設(能力増強)

流域対策: 緑地、ため池の保全



▶日光川水系

日光川は、江南市北部を源流とし伊勢湾に注ぐ二級河川で、上下流の高低差が約20mと非常に勾配が小さく、下流域にはゼロメートル地帯が広がっています。本市では、日光川・福田川・蟹江川(以上、愛知県管理)及び戸田川(名古屋市管理)が流れており、いずれも河口部にポンプが設置されています。

本市では、市街化区域は下水道等の治水施設整備が進められており、ポンプにより雨水を排水しています。市街化調整区域は土地改良区などのポンプにより、雨水を排水しています。庄内川と同様に、日光川の水位が危険な状態に達した場合は雨水ポンプの運転を停止する排水調整を行うこととなっています。流域には市街化調整区域を中心として保水・遊水機能を有する農地があることから、農地の保全及び農業施設の機能を確保していくことが重要です。



【本市の対応】

河川(愛知県管理): 県に対し、事業の着実な促進・推進を要望
 優先整備河川:(二)戸田川(河道整備)
 下水道等: 下水管等・雨水ポンプ施設(能力増強)
 流域対策: 農地の保全



▶山崎川水系

山崎川は、千種区平和公園内の猫ヶ洞池を源流とし、昭和区、瑞穂区、南区を流下する二級河川で、本市が管理しています。中流域には桜の木が植えられており、「山崎川四季の道」として「日本さくら名所100選」に選ばれています。

上流域では、急速な宅地開発等により浸水被害が頻発していたことから、千種台排水対策事業（昭和39年～昭和49年）により、流域の一部を矢田川流域に変更する対策を実施しました。また、平成3年台風18号や平成12年東海豪雨では堤防から越水するなど、甚大な被害が発生しています。JR東海道本線橋梁と名鉄名古屋本線橋梁が治水上ネックとなっており、平成31年4月現在、JR東海道本線橋梁の補強及び河道掘削を実施するとともに、名鉄名古屋本線橋梁の改築に向けた手続きを進めています。

流域の下水道は、中上流域は自然排水ですが、下流域は雨水ポンプによる排水を行っています。平成12年東海豪雨などで著しい被害が集中した地域では、緊急雨水整備事業の実施により雨水ポンプの増強や貯留施設整備、管きよの増強などを実施しました。

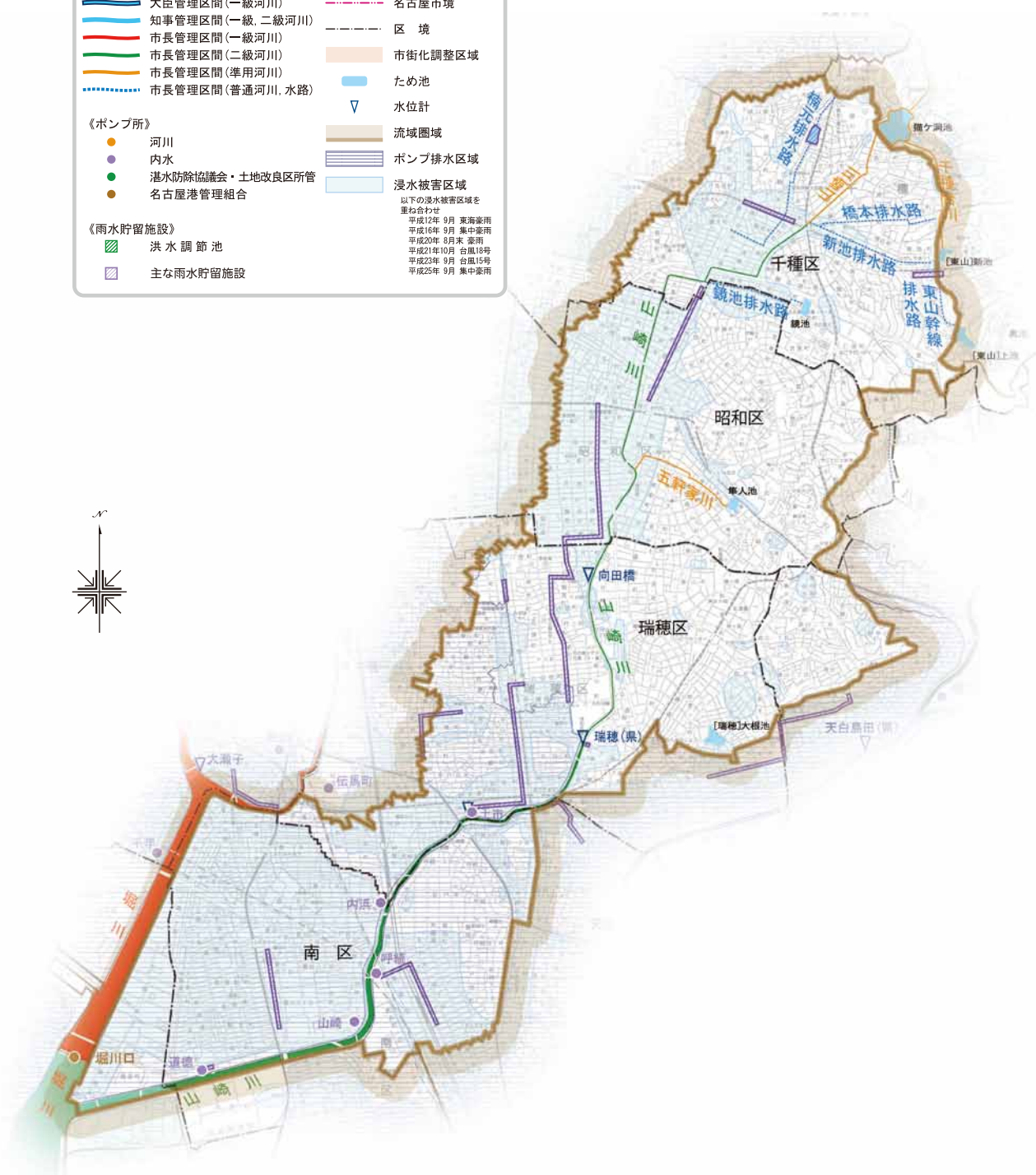
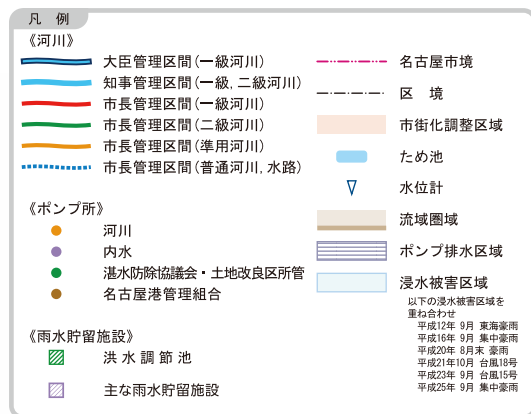


【本市の対応】

優先整備河川：(二)山崎川（護岸整備、河道掘削、橋梁改築）

下水道等：下水管等、雨水ポンプ施設（能力増強）流域対策：緑地、ため池の保全

その他：100mm/h安心プランに基づき、河川・下水道等の整備を推進



▶ 境川水系

境川は、みよし市北部を源流とし、衣浦湾に注ぐ二級河川で、愛知県が管理しています。本市は、緑区の一部が境川流域に含まれています。

境川流域は、昭和57年に「境川流域総合治水対策協議会」を設置し、流域が従来から有している保水・遊水機能の維持、増大を図るなどの方策を流域関係機関で進めてきました。その後、平成24年に特定都市河川浸水被害対策法に基づき、境川は特定都市河川及び特定都市河川流域に指定され、平成26年に県、関係市町村が共同で「境川・猿渡川流域水害対策計画」を策定しました。本計画に基づき、流域の治水安全度向上に向けた取組が進められています。



【本市の対応】

河川(愛知県管理): 県に対し、事業の着実な促進・推進を要望

下水道等: 下水管等(能力増強)

流域対策: 流域水害対策計画に基づき、流域対策を推進

▶その他流域（中川運河、荒子川、大江川流域）

これまでの水系の他に、中川運河、荒子川、大江川及び名古屋港へ排水する流域があります。中川運河は港湾施設として名古屋港管理組合が管理しており、最下流部にポンプが設置されています。荒子川、大江川は本市が管理する普通河川で、荒子川の河口にはポンプが設置されています。

平成12年東海豪雨や平成20年8月末豪雨で著しい被害が集中した地域等では、緊急雨水整備事業により、雨水ポンプの増強や貯留施設整備、管きょの増強などを実施し、平成31年4月時点で、一部地域を除き事業を完了しています。





【本市の対応】

下水道等：下水管等・
雨水ポンプ施設
(能力増強)
そ の 他：100mm/h安心プラン
に基づき、河川・下水道
等の整備を推進